

【カレッジ・はなみづき】新聞

第64号 H.28.2.12.

発行 [カレッジ・はなみづき]

文学講座

『百人一首』

大越会員

十二月十一日 13世紀前半成

立したとされる「小倉百人一首」

について

大越会員が調

べ発表した。

藤原定家が飛

鳥・鎌倉時代

にかけて百人

の歌人の秀歌

百首を選び、

「小倉百人一首」としてまとめ

た。・時代背景(万葉集、六

歌仙、女流歌人全盛、隠者と

武士の登場、各時代の歌の特

徴)・修辞(歌枕、代表的な

枕詞、序詞、掛詞)・正月の

風物詩「かるた」に関する話等

夫々を詳しく解説。その後代

表的な歌16首を会員達が読み上げ、作者や歌の意味、枕

詞等の説明を受ける。お正月

の遊びとして丸暗記していた

「百人一首」にもつと関心を持

ち、その意味する所に触れた

いと思う。次回を期待したい。



年末近くになると新聞に



出さず黙読の私にとって楽し

い一時となつた。久し振りに

百首読んでみて、定家本人の

詩「こぬ人をまつほの浦の

身もこがれつつ」が気に入っ

た。こんな激しい恋などした

事がない私にとって羨ましい。

オクター・マンドリン・バイ

・音・3、5、8度奏法・

オクターブ・リム・バイ

・合奏から

「サークルの歌」

始まり、

ながれた。

つまり、童謡、演歌と幅広くつ

和ませた。昭和の初め、まだ

世の中が騒然としていた時代

に多くの人々に愛され一世を

風靡した楽器である。「複音ハ

ーモニカ」その音色は情緒豊

かで美しく、人々の心を癒し

てくれた。文部省唱歌から始

まり、童謡、演歌と幅広くつ

るのでしょ

うね。21穴

の小さな樂器で・単

音楽講座

武田会員母上の作品

音楽講座

ハーモニカと歌おう

音楽講座

沼南ハーモニカサークル

音楽講座

ハーモニカと歌おう

音楽講座

ハーモニ